

市民こそ主人公、施策の評価・検証は市民参加のなかでやるべき

第5次総合計画基本計画変更で反対討論

12月定例会議会は15日閉幕しました。今定例会では、春から市がすすめてきた事務事業の総ざらいの最終評価が発表されたこともあって、この問題や村山市長が9月定例会議会で言い始めた地域事業の見直し問題が最大の焦点となりました。

私たち日本共産党議員団は、提案された議案のうち、第5次総合計画基本計画の変更についての議案だけ反対し、一般会計補正予算などの他の議案はすべて賛成しました。

討論には、久しぶりに私が立ちました。市の第5次総合計画基本計画の変更についての反対討論です。

私が反対の理由としてあげたのは、①事務事業の総ざらいの手法を計画の運用管理に導入することにより、政策・施策の評価検証が行政主導になること、②基本計画の運営管理に事務事



業の総ざらいの手法を反映させただけでなく、明らかに評価結果に基づく記述変更とみなされるものがあること、③人権尊重・非核平和の推進に関する記述に明らかな後退がみ

られること。今回の変更では、これまでの「市民一人ひとりの基本的な人権が保障されるまちづくりをすすめるため」という文言が、「人権問題に対する正しい理解と認識を深めるために」と変更されたのです。そしてもうひとつ、④土地開発公社の負債は合併前上越市の地域事業費で整理することが合併時の約束だったにもかかわらず、この点については積極的な姿勢が見られないことです。

TPP交渉反対請願は継続審査に

もうひとつ、お知らせです。JAえちご上越などから出されていたTPP交渉参加はやめろという意見書を政府関係機関に提出してほしいという請願は継続審査ということで本決まりしました。農業都市として基幹産業を守る立場に立つてすぐ対応してほしいと思っていたので残念でなりません。

継続審査が決まった直後、飯塚義隆議員から「将来に希望の持てる農業政策の確立に関する決議」をしようという動議が出されました。各派代表者会議で決議文案について議論し合いました。当初案には「貿易自由化の議論を進める前に」農業政策の確立を求めるといった、交渉参加を前提にした文言がありましたので、私の方から文言を変更するよう迫ったところ、修正され、全会一致でこの決議は採択されました。

14市町村合併の中間評価指示

市町村合併から間もなく6年が経過しようとしております。私は今回の一般質問で、14市町村合併の中間評価・検証を行い、市政運営に

役立てるべきだと訴えました。

答弁に立った村山市長は、「この間、社会経済情勢は大きく変化しており、そうした中で合併協議に基づく事務事業の調整が概ね終了した現時点において、効果の確認や課題について整理することは意義あるものと認識しており、既に創造行政研究所へ作業を進めるよう指示している」と答えました。

評価の対象とする項目としては、①合併当初の目的である、強い行財政基盤の確立をはじめ公共施設の統廃合や、職員の定員管理などによる行政のスリム化の状況、②合併後に実施してきた行政制度やサービスの調整による市民生活への影響、③地域自治区制度をはじめとする地域コミュニティなど、様々な主体との協働による行政運営の現状、④合併後の社会情勢の変化の中で、合併時に設計した制度の検証などを基本的なものとして考えているとのことでした。

シリーズ 上越市内の橋

第57回 平沢橋



「平沢橋」と書いて「ひらさわばし」と読みます。吉川区を流れる吉川の支流、釜平川にかかった橋。旧源診療所のすぐそばにあります。小学校の高学年だった頃、この橋の近くで釣りをしていたところ、診療所の先生に釣りを教えてくれと頼まりました。自己流の釣りを話しただけなのに、先生のお連れ合いからほっぺたにキスしてもらい、びっくりした記憶が残っています。

橋長は約10メートル。竣工は2000年（平成12年）3月です。

春よ来い 第一三四回 ヨシキユウさん

お線香を上げに行つてひと言、「ありがとうございました」と言つておきたい。誰にもそういう人がいると思います。先日亡くなったTさんもその一人でした。長年にわたりバスの運転手をやつていて、地域の人たちからは「ヨシキユウさん」と慕われていました。

私の子どもの頃からバスの運転手でした、ヨシキユウさんは。長年にわたり勤めていた頸城自動車には昭和三五年に入社しています。運転が上手いだけでなく、手先も器用な人でした。エンジンの手入れ、バスの塗装までやつたことがあるといひます。そこまですら、他にもそういう人がいるかもしれません。ヨシキユウさんが地域の人たちに愛されたのは、「口は悪いが、誰よりも気さくで親切」な運転手さんだったからです。

ほんとに気さくな人でした。乗客が少ない時には「おい、バサ、どこへ行ってきたい」「おまん、どここの子か。おとつあに似ているなあ」といった調子で乗客に声をかけていましたね。おそらく、役所の戸籍係の人よりも吉川の人のことを知つていたのでないでしょうか。人の顔だけでなく、車のナンバーもよく憶えていて、「おまん、この間、高田の本町にいたね」などと言われ、びっくりしたものです。

ヨシキユウさんの親切ぶりはあまりにも有名です。四輪駆動車がまだ普及していなかつた時代、雪道での車の運転はいまとは比較にならないほどたいへんでした。車の下に雪を抱いてしまつて動けなくなる。すべつて側溝に自動車を落とす。こんなことはしょつちゆうでした。車を動かさなくなつて困つてるところへヨシキユウさんの運転するバスがやつてくると、みんな、ホツとしたものです。なぜか。じつは、ヨシキユウさんは雪で動けなくなつた車を引くための専用ワイヤーロープをつくり、自分の運転するバスの中にも用意しておいて、必ず助けてくれる人だったからです。それからもうひとつ、バス会社には内緒ですが、足の悪い高齢の人がバスに乗つていれば、その人の家に一番近いところでバスを止め、降ろしてましたね。

葬儀が終わつて数日後、お悔やみのためにTさん宅を訪問したら、ヨシキユウさんと付き合ひのあつた人たちが五人ほどおられ、みんなで思い出を語り合ひました。「口は悪かつたけど、人間は最高にいい人だったこと」これは、みんなの共通の評価でした。そしてこんな話も出ました。

ヨシキユウさんは正義感が強く、曲がつたことが大嫌いな性格の持ち主だったといひうのです。旧源農業協同組合があつたところのある日、たぶん、除雪がよくなかつたのでしよう、元農協職員の日さんは、ヨシキユウさんが道路管理者である県庁の幹部にとつても強い調子で電話をしてる姿を見たといひます。住民の足を守るためには、行政に対しては何でもズバズバ言う人だったのです。

葬儀の際、導師をつとめた専徳寺の松村さんと先日、ヨシキユウさんについて話をする機会がありました。松村さんが言いました。「ふるさと親善大使のような人。ふるさとを思い、そこに住む人たちのことをいつも気にかけていた人でしたね。一〇人いれば一〇人がヨシキユウさんとの間にエピソードを持つていたのでは……」と。

焼香させてもらひ、遺影を見た時、私が思いだしたのは二〇数年前のヨシキユウさんの言葉です。「おまんの宣伝カーが来ると、おらちのやんども、すつかり憶えちやつてさ、橋爪です、よろしくお願いしますつて」。本当にいい人でした。

冬の夜空に花人がツレ、バレ、バレ

吉川区原之町の旧町役場前広場は18日、大勢の子どもたちが賑わいました。この日はキラキラ大作戦の日だったので。今回は6回目、雨も雪も降らず、最高の天気。なか、子どもたちはゲームやクイズなどを楽しみました。まあ、子どもたちの元気なこと、歓声は遠くにも聞こえましたね。



夜の8時からはずっかり恒例となつた冬の花火です。午後8時から20分くらいだったのでしようか、次々と打ち上げられました。場々谷池の上空でバン、バン、バンとはじけるたびに歓声が上がりました。とてもきれいでしたね。

花火はこれまでのキラキラ大作戦の中で一番多く上がったように思います。協賛者のなかには孫さんが誕生し、その子の成長をねがつて、花火を上げた方もお

られました。「それではソラ君が大きく羽ばたくことを願つて花火が上がります」。このアナウンスを聞いて、今年観た映画、「お兄ちゃんの花火」を思い出しました。今回の花火の様子は動画でも撮りました。私のホームページの動画集、または18日付けのブログ、「ホーセの見てある記」でごらんいただけます。



カモ鍋が美味しい季節に

先日、頸城区の友人宅でカモ鍋をご馳走になりました。

2時間も煮込んだという肉は軟らかく、とても美味しいものでした。

